

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL. 2 9

開催地：八代市麦島校区

平成 19 年 9 月 19 日（水）、八代市麦島校区（会場：麦島東西町集会所）において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」を実施しました。

同報告会には、約 20 名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

いただいたご意見等並びにご意見等への回答については下記のとおりです。

なお、報告会の時に回答した内容が不十分であったところについては補足しています。

参加者数※

市内	22 名
市外	2 名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問	ご意見・ご質問への回答
<p>【河川整備基本方針の説明について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドの過去の洪水の写真について、説明された地名が違うのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の洪水時において八代市内の左岸側に洪水が氾濫している状況をお示しするために用いた写真について、写真に写っている場所（渡町；現在の球磨川河川敷スポーツ公園付近）と説明で述べた地名（豊原）が一致していませんでした。ご指摘を踏まえ、後の報告会では説明を改めさせて頂いたところです。
<ul style="list-style-type: none"> ・H18.7の萩原地区の洪水時に萩原地区何 m³/s 流れたのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年7月洪水のピーク流量は、横石観測所（八代市坂本町）で約7,100m³/s（速報値）でした。横石水位観測所から萩原地区までは、大きな支流の流入がないことから、概ね同じくらいの流量が流れたと想定されます。
<ul style="list-style-type: none"> ・萩原堤防の深掘れについて、スライドの説明箇所では何 m 掘れているのか。また、スライドの説明箇所が一番危険な箇所とのことだが、何故工事をしないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告会でご説明したスライドに示した河川断面（河口から7k600 mの地点）で深掘れしている深さは、おおよそ2～3m程度です。 なお、スライドでお示しした場所は深掘れ箇所の1事例であり、長い区間で深掘れしているため、現在は、特に深掘れが著しい新萩原橋下流の対策を実施しているところです。
<ul style="list-style-type: none"> ・計画高水流量 7,800m³/s とのことだが、これまで（現状では）八代は 7,000m³/s しか流せないと言われていたが、なぜ変わったのか分からない。（目標が）1/80 から 1/100 に変わった理由も教えて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの計画（工事实施基本計画）では、八代地区の安全度を80年に1回の規模として計画高水流量7,000m³/sとしてきました。今回、横石地点における治水対策の目標とする洪水の規模について、全国の他の一級水系とのバランス等を考慮して小委員会での審議の結果、100年に1回の規模としたものです。 今回の計画高水流量7,800m³/sは、このような過程を踏まえ、上流から流下する流量や河道の状況を考慮して河道で安全に流す目標として定めたものです。
<ul style="list-style-type: none"> ・洪水調節する量がなぜ人吉では 3,000m³/s で八代では 2,100m³/s なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般に、ダムに近いほど洪水調節効果は大きく、ダムから遠くなるに従い、支流等からの流入の影響を受けて洪水調節効果は低減します。これは流域における降雨の降り方によっても変わり得るものです。
<ul style="list-style-type: none"> ・流量調節について、電源開発（発電）での流量の違いは考慮しないのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電源開発（株）が管理する瀬戸石ダムは発電専用のダムであり、洪水時には洪水調節を行わないため、これを考慮していません。
<ul style="list-style-type: none"> ・川辺川ダムの話は無かったが、基本方針や報告会と川辺川ダム 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針は、長期的な河川整備の目標等の基本的な方針について

<p>の関係を説明して欲しい。</p>	<p>て定めたものであり、ダムを整備など具体の治水対策については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していくことになります。</p> <p>報告会は、基本方針の内容等について地域の方々にご報告するために開催したものです。</p>
<p>【球磨川の治水対策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな方法で洪水から守るのは当然だが、大自然の力は止められない。川もきれいにし、洪水からも守るといった両面からの対応を考えて欲しい。 ・ダムを前提としているように聞こえたが、できればダムではなく自然の力で洪水から守ることを考えて欲しい。 ・S40年の萩原の堤防が崩れた写真があったが、昔ここに旅館があって、その旅館が崩れる状況を目の前で見た。洪水から守るのが大事か、環境が大事か難しいところではあるが、下流に住んでいるので備えあれば憂いなしということでダムを造って欲しい。ダムを造って魚が泳ぐような環境もつくるということをしてもらいたい。 ・前川橋から八代大橋の間は堤防が低いが大丈夫か。今後、堤防を整備するなどの計画はあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見のとおり、球磨川では、これまでの治水対策により、洪水に対する安全性がある程度高まった反面、昔に比べて川への親しみが薄れてしまったところがあると思います。国土交通省では、今後とも、治水のみならず河川の環境や利用も考慮した川づくりを進めていく考えです。 ・ダムなどの具体の施設については、今後、河川整備計画を作成する際に検討していくこととなります。いただいたご意見については、検討の参考にさせていただきます。 ・ダムなどの具体の施設については、今後、河川整備計画を作成する際に検討していくこととなります。いただいたご意見については、検討の参考にさせていただきます。また、国土交通省では、環境面であれば、例えばアユ等の魚類の生息に配慮し、関係機関との連携・調整の下、産卵場の再生、魚道の改良等の生息・繁殖環境の改善にも努めていきたいと考えています。 ・ご指摘の区間では、高潮については昭和34年に日本に甚大な高潮被害をもたらした伊勢湾台風と同規模の台風が九州本島の西側の進路を通った場合に想定される高潮、洪水については基本方針で定めた計画高水流量(横石地点7,800m³/s)に対して必要な堤防の高さが概ね整備されています。 <p>しかしながら、想定外の洪水や高潮が発生する可能性もあることから、その場合でも被害を最小限に防ぐことができるよう、例えば、市町村のハザードマップ作成への支援など避難警戒体制の一層の充実に努めて参りたいと考えています。</p>
<p>【球磨川の環境について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・球磨川と前川が分かれるところの堤防でハエなど魚がよくとれていたが、釣れなくなった。 ・ヘドロが堆積し、干潟の面積が小さくなっているのではないか。昔はハマグリなどを取っていたが、今はとれない。干潟の変化について断面図で示して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省では、今後、アユ等の魚類の生息に配慮し、関係機関と連携しつつ、産卵場となる瀬の再生、魚道の改良等に努めていきたいと考えています。 ・八代海の干潟については、河川管理者として測量を行っておらず断面図をお示しすることはできませんが、ご指摘のとおり、近年、八代海の干潟は減少傾向にあるようです。 <p>干潟の減少傾向を踏まえ、球磨川では、近年、例えば、川の中から撤去した堆積土砂を漁協等と連携しつつ八代海の覆砂に活用したり、球磨川の国が管理する区間からの砂利採取を禁止する措置を講じるなどしています。今後とも、関係機関と連携を図りながら、干潟などの良好な自然環境の保全に努めていきたいと考えています。</p>

<ul style="list-style-type: none"> 水質について、行政の縦のつながりだけでなく、行政どうしの横のつながりというのはどれくらい進んでいるのか。魚がいないことは、これまで、生活優先ということで川にいろいろなものを流してきたことが原因だと思うが、横のつながりや今後の対応について、河川局（国土交通省）としての考えを聞かせてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ご意見のとおり、水質については、要因が様々で多岐にわたるため、下水道等の事業を行っている地元市町村のみならず、水質への意識向上の観点から地域住民とも連携を図りながら、水質の保全・改善に努めていく必要があると考えています。
<ul style="list-style-type: none"> 生活排水の処理の仕方については、河川局（国土交通省）としてもシビアな指導が必要と思うがいかがか。 	<ul style="list-style-type: none"> 国土交通省としても、熊本県、地元市町村等と水質汚濁対策連絡協議会を組織し、関係機関が連携して必要な対策を行ってきているところですが、引き続き、関係機関のみならず、地域住民の方々とも連携を図り、水質の保全・改善に努めていく必要があると考えています。
<ul style="list-style-type: none"> 堤防、ダム、堰を造った後に河床の状態はどうなっているのか。また、造った後のメンテナンスをどのように考えているのか。ここに来て13年になるが、球磨川も前川も川の中に島がたくさんでき、大きくなったと思う。こうしたことについて意見を聞きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 河床の状況については、定期的に測量を行っており、土砂の堆積等により洪水を安全に流すうえで問題があると判断される場合は、環境にも配慮しつつ土砂の撤去などの対策をとることで考えています。ご指摘にある球磨川や前川についても、現在、同様に状況をモニタリングしているところです。
<ul style="list-style-type: none"> 水無川について、海に流れるところで乳白色のネコのおしっこのような臭いがする廃液が工場から流されている。是非調査してもらい、国からも指導して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘につきましては、水無川を管理する熊本県にお伝えしました。国土交通省としても、熊本県、地元市町村等の関係機関、地域住民の方々とも情報を共有し、水質の改善、保全に向けた取り組みに協力していきたいと考えています。
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 萩原の天神ばねが昔は出ていたが、今は見えなくなった。なぜか。 	<ul style="list-style-type: none"> 現地に樹木が繁茂したためと考えられます。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ 誹謗中傷するような発言については掲載しておりません。